

編 集 後 記

今までの多くの臨床雑誌の中で、胃腸の診断に関して、わが意をえたりと膝をたたくようなものはなかったが、本誌「胃と腸」はほんとにかゆいところに手がとどいた感がある。

ひるがえって本誌発刊には諸先生、関係各位の方々の涙ぐましい努力があったことはその内容外観をみればおのずからわかることである。ここに改めて多数の人々の懇願が一つの結晶として出現したことを喜ぶと共に、その美しい結晶から放つ輝かしい暖い光によって、多くの胃腸専門医師に幸福と希望と活気とがもたらされ、さらに、多数の胃腸患者により多くの福祉がもたらされんことを衷心より願うものの一人である。

第三回世界消化器病学会も無事終了し、ほっと一息する間もなく、国際癌学会で心身ともに忙しい諸先生の御努力を言葉はなくとも肌で感じさせる今日この頃である。世界消化器病学会では皆様の御承知のように、早期胃癌の診断については、オリンピック決勝戦で金銀銅の三メダルすべてを日本が獲得した感があり御同慶にたえない。

このことは本誌に関係してられる諸先生のなみなみな涙ぐましい努力のたまものであることは確実である。それには十年来、諸先生のこの方面で、一致協力して争うことなく、仲良く、互に教え、互に教えられ、笑顔で研究会に出席できるようなムードを作って頂いたお蔭であると確信する。ここに諸先生の御努力に再三再四感謝してもまだ足りない気持で一杯である。今後もこのムードをこわすことなく永久に続けて行きたいし、またそうなくてはならないのは当然であろう。

一方敵はなかなか強力で、早期胃癌にしてもⅡb、数mmのⅡcやⅡa、等、潰瘍または潰瘍瘢痕にしても1mm以下のもの、ボールマン4型胃癌の早期発見、ビラン（扁平、線状、点状）の診断、胃炎の診断、捻り、経過の問題、小隆起性病変の診断、等々テーマは無限にあることを忘れず、勝つて兜の緒をしめて、諸先生の暖かい御指導御協力をえて、皆様が仲良く笑顔で発展したいと思う。

本誌「胃と腸」は今や日本は勿論世界を舞台として活躍しようとしており、世界の胃腸の学者と仲良くすることにより、知識と善意とを交流して、今後の胃腸学の発展飛躍のために本誌を大いに役立てたいものである。それにはまず諸先生、関係各位の御尽力と読者の皆様の御助力をさらにさらに得たいと思う。

＜青 山 大 三＞